

# ドビュッシー ピアノ曲「月の光」を題材とした表現活動の一考察

—保育所での実践を通して—

古 谷 和 子

## A Study of Way of Expression on “CLAIR DE LUNA” by Debussy:

How to teach it at nursery schools

*FURUTANI Kazuko*

キーワード：表現力、想像力、創造力

### はじめに

筆者は平成17年4月より埼玉県Y保育園にて音楽講師として子ども達と様々な活動をしている。音楽の素晴らしさを是非0歳児から伝え指導して欲しいと、音楽に大変理解のある理事長・園長・保育士等の温かい協力の下、毎月3～4回のペースで活動を行い9年目を終わろうとしている。筆者は父兄同伴で1クラス子ども10～15名程度の3～7歳児の音楽指導の経験はあったが、1クラス20～30名の保育所活動は初めてであった。始めた当初は“音楽講師”であるので、主に音楽の素晴らしさ、楽しみ方、味わい方などを伝え、感性豊かな子ども達を育てたいと音楽中心に考えていたが、活動すればするほど音楽のみに留まらず、他の領域、健康、人間関係、環境、言葉、絵画制作やそれ以外の様々な要素も絡む総合的な活動であることを日々実感している。

幼児期の音楽指導は平成元年以前の6領域中の「音楽リズム」のように「すなおな声、はっきりした音程に気をつけてうたう、曲の速度や強弱に気をつけて楽器をひく」(注1)など正確に歌えたり、リズムを刻んだり、発表会を意識しての楽器演奏技術の習得を目標とするのではない。平成元年に「幼稚園教育要領」が20数年ぶりに改訂され、六領域の「音楽リズム」と「絵画制作」が、

一つの「表現」にまとめられ、平成2年に改訂された「保育所保育指針」にそのまま受け継がれ現在に至っているように、「幼稚園における教育は、遊びを通しての総合的な指導であり…領域『表現』は、子どもの興味・関心に基づいてさまざまな面を総合的に伸ばし育ていく保育全体の中でとらえることが必要」(注2)なのである。

本稿では、Y保育園の、ある期間の活動においてドビュッシーのピアノ曲「月の光」を題材として、筆者が作った物語から子ども達がどのような反応や表現を見せてくれるのか、他の領域とどのように絡み、どのような総合的活動に発展することができたかの実践報告を交えながら考察していく。

第I章では、「月の光」について、題材に取り上げた理由、作曲者と曲について、詩と時代背景、絵画と印象派について簡単に述べ、第II章では音楽鑑賞について触れ、第III章では保育所での活動状況、そして第IV章でその実践報告をする。

### I. ベルガマスク組曲 第3番 「月の光」について

#### 1. 題材として取り上げた理由

まずこの曲は9/8拍子の複合拍子ではあるが、子どもの耳に心地よい3拍子でゆっくり始まる。ドビュッシーが曲の初めに Andante très expressif (非常にゆったりと、表情豊かに) と指示しているように、流れるような旋律、落ち着いた

たテンポ、色彩豊かなハーモニー、様々な音型などが、感性を育てたい子ども達に適した音楽なのではないか、またイメージを作り易いのではないか、さらに形式も再現部を含め、大きく分けて5部で構成され、変化に富んだ各部とその繋がりにはストーリー性が感じられ、物語としてのまとまりがあり、子ども達にも分かり易いのではないかと考えた為である。以下にその理由を具体的に記す。

#### (1) 1～14小節

8分音符のほぼ2～3度音程の緩やかな動きの中に時々聴こえるオクターヴの跳躍、またタイと付点音符のロングトーン、2連符と3連符の微妙なリズムの揺れなどが「今から何か始まる…」という期待感を持たせ物語の語り初めに適していると考えた。

#### (2) 15～26小節

15、17小節は最低音から最高音が5オクターヴ以上の跳躍でまさに“何か起こった”ことを思わせる音型。さらに16、18小節の左手は跳躍後、中央音域の和音、右手は3点ファを含む高音域の和音で続き、特にソプラノのメロディーラインが子ども達の好きなトライアングルやグロッケン音色に近く、心地よい印象を受けるのではないかと考えた。19～25小節のベースラインのラ♭→ラ→シ♭→ド→レ→ミ♭→ファの半音、全音上行進行と、19、21、23小節の右手メロディーラインの最高音がド→レ→ミと上行していく部分は、高低二つの音域で盛り上がりを自然に感じることができ“緊張”が走るが、25、26小節の付点2分音符で“弛緩”、子ども達は何か安堵感を感じ、ほっと一息つける。15～26小節はドビュッシーがTempo rubato（自由な速さで）と指示しているが、物語の中でも色々な出来事が起き、子ども達の想像力をかきたてるのではないかと考えた。

#### (3) 27～50小節

27～42小節にUn poco mosso（少し動きを持って）の指示があるように、右手高音部の美しいメロディーに初めて登場する16分音符の伴奏で、ほぼ上行型で流れていき、物語の進行を手伝って

いく印象を受ける。変ニ長調からホ長調に転調し、また変ニ長調に戻り、この長い部分で子ども達は何を感じているのか対話をしたい。43～50小節にはCalmato（落ち着いて）の指示があり、音楽は変化に富んだ第2、3部から落ち着いた再現部へとゆっくりと橋渡しをしていく。

#### (4) 51～65小節

そして再現部はTempo I（初めの速さで）の指示通り、音楽は再現され、物語も終局に向かう。しかし最初の51小節はすぐにはI度に解決せずIII度に回り道している。また59、61小節はド♭を1音加える事でI度からiv/V7の和音で変化をつけ、曲初め1小節とは微妙な和声の違いを出している。子ども達がこの色の違いを感じられるかは個人差があると思うが、筆者の“語り口”でその微妙なニュアンスを出したい。

#### (5) 66～72小節

66小節からのコードは27、28小節の形をモチーフとして変形させI-III-I-IIIのハーモニーを2小節にまたがり繰り返し、微妙な揺れを表現している。Morendo jusqu' à fin（最後まで少しずつ消えるように）の指示があるが、1オクターヴ上でもI-III-I-IIIをさらに繰り返し、この66～69の揺れの中で物語もまどろみから目覚めていく。そして2小節ずつにまたがっていた音型が70、71小節では1小節ずつに凝縮され、最後のクライマックスに向かって緊張が走る。最終小節では最低音と最高音が4オクターヴ以上離れた8音の構成音からなる華やかなI度の和音のアルペジオ（ハープのような奏法）で全て解決する。非常に明るくまた開放的、満足感溢れる響きが物語の最後にふさわしく、充実感や達成感を子ども達は感じるのではないかと考えた。

## 2. 作曲者と曲について

作曲は、クロード・アシル・ドビュッシー（1862パリ近郊～1918パリ）。伯母が彼をピアノに導き、9歳の時にショパンの弟子で詩人ヴェルレーヌの義母でもあったアマチュア音楽家モータ夫人から手ほどきを受け、1年後にはパリ音楽院

に入学。抜群の初見力があり 14 歳でソルフェージュ第 1 等メダル獲得、15 歳でピアノ第 2 等賞、しかし 16 歳では賞を逃し、17 歳でピアノクラスを去り、18 歳から作曲クラスに転向。22 歳で名誉あるローマ大賞受賞。ローマに 2 年間留学し、帰国後 3 年目の 28 歳（1890）頃に「ベルガマスク組曲」を作曲。1901 年に出版社が、ある楽譜の裏に載せた広告ではこの第 3 番を「感傷的な散歩」としていた。作曲から 15 年後の 1905 年に現行の 4 曲からなるベルガマスク組曲をようやく出版。第 3 番のタイトルは「月の光」に変更された。

### 3. 詩と時代背景

「ベルガマスク」<sup>①</sup>は、北イタリア地方の「ベルガモの」「ベルガモの人」という意味。これに「仮面」のフランス語「マスク」<sup>②</sup>をかけて韻をふんだフランスの象徴派の詩人ヴェルレーヌの「艶かしきうたげ」（1869）という詩集の一篇「月の光」がドビュッシーの曲想の根底にある。

#### “CLAIR DE LUNA”「月の光」

Votre a' me est un paysage choisi  
そなたの心はけざやかな景色のようだ、  
Que vont charmants masques<sup>②</sup> et  
bergamasques<sup>①</sup>,

そこに見なれぬ仮面して仮装舞踏のかえる  
さを、

Jouant du luth et dansant et quasi  
歌いさざめいて人々行くが

Tristes sous leurs de'guisements fantasques.  
彼らの心とてさして陽気ではないらしい。

Tout en chantant sur le mode mineur  
誇らしい恋の歌、思いのままの世のなかを、  
L' amour vainqueur et la vie opportune,  
鼻歌にうたってはいるが、

Ils n' ont pas l' air de croire a' leur bonheur  
どうやら彼らとて自分たちを幸福と思って  
はいないらしい

Et leur chanson se me' le au clair de lune,  
おりしも彼らの歌声は月の光に溶け、消える、

以下 省略 堀口大學訳（注 3）

「艶かしきうたげ」とは 18 世紀の宮廷で行なわれていた貴族の優雅な宴のこと。余興で盛り上げたイタリア喜劇の役者に訛りのきついベルガモ地方の人が多かった。「文人達は、フランスが最も光り輝いていた太陽王ルイ 14 世の時代に思いをはせていた。ヴェルレーヌの「艶かしきうたげ」にもそんなアンシャンレジムへの憧れの念が込められている。」（注 4）

### 4. 絵画と印象派

音楽史上では、ドビュッシーは印象派の作曲家として分類されているが、ローマ大賞を受賞した 1884 年頃には絵画、文学では印象派運動は下火になっていた。「印象派」はすでに、“ぼやけていて、もやもやとはっきりしない” というあまり良くない意味に使われていた。当時の画家達も次のような言葉を残している。「ルノワール『印象派の描き方を捨ててからいい絵を描くようになった』。モネ『自分が印象派グループの名前の原因になっているのは遺憾である』。熱心に印象派展に出品していたドガ『自分は印象派じゃない』。またマネは印象派展には一度も出品しなかった」（注 5）またドビュッシーの音楽の雰囲気似ているとよくいわれる画家モネの「睡蓮」は 1899～1920 に製作されたもので、ドビュッシーの個性溢れる色彩、技法が確立された傑作「牧神の午後への前奏曲」は、それ以前 1894 に作曲された作品なのである。見たままの印象をそのまま描きとめた印象派とは違い、心の中で再構成して音で表現しているところが、絵画の印象派とは異なるようである。

しかしながら、ドビュッシーの作品は「印象派絵画の溢れるような豊富な色彩感覚と透明な流動するゆらめきをそのままピアノの響きの中に展開したもの」（注 6）と安川氏が述べているように淡い色使い、ほかし、響きなどに、ルノワール、モネ他同じ時代に活躍した画家達や、マラルメ、ヴェルレーヌ等の詩人等の芸術と類似性を見出すこともできるのではないだろうか。

## Ⅱ. 保育所での音楽鑑賞

音楽活動の一つ「鑑賞」においては、未知曲をただ黙って着席して聴くという行為は特に小学生以下の子供達にとっては難しく退屈な時間である。しかし音楽の美しさ、楽しさ、おもしろさ、緊張感、充実感、また友達と一緒に聴く共有感等を感じ味わって欲しいと思い、身体全体を使って表現することが大好きな子供達には、受身の鑑賞から参加型の鑑賞活動に変え、約1ヶ月に1曲のペースで指導している。0歳の乳児では等速、1～2歳児は強弱、音価、アクセント、テンポ／リズム／フレーズの変化、3歳以上の幼児では加えて楽器／和声／調／の変化を感じられるよう活動を行なっている。また動物が多く出てくる「動物の謝肉祭」（サン・サーンス作曲）を聴かせ、子供達はその中の好きな動物を描き、自分や友達を描いたその絵を見ながら鑑賞したりその動物に変身したり、別の月では名曲のオーケストラ演奏を聴きながらその曲に合わせて踊ったり、兵隊、アヒル、人形、サルのシンバル人形、闘牛士、ねずみ捕りや、さらには泥棒まで登場したりと子供達も音楽に興味を持てるよう、ワクワク楽しめるよう、また集中して耳を傾けられるよう配慮しながら様々な身体表現の指導にもあたっている。

このような活動を経験している5歳児達が、今回は筆者の活動では初めて音楽を鑑賞しながら物語を聞き、それを発展させる活動を行なう。

## Ⅲ. 保育所での活動情況

### 1. 活動目的

「月の光」を子供達と鑑賞し、音楽からのインスピレーションにより、子供達は感じたことや考えたことを自分なりにイメージし、言語、絵画、身体を通して表現することによって、豊かな感性や表現する力を養い、想像力を伸ばし、創造性を豊かにする。

また友達と一緒に一つのことを作り上げること

によって「一緒に活動する楽しさを味わう」（註7）

### 2. 活動対象

埼玉県 吉川市 Y 保育園 5歳児 25名前後

### 3. 活動方法と流れ

「月の光」を鑑賞しながら筆者があらかじめ設定した物語について子供達と対話し、それぞれが絵を描き、さらにクラス全体で劇遊びに発展させていく。

- （1）音楽を鑑賞しながら、筆者が大まかに創作した物語を子供達との対話を通して発展させていく（言葉による表現）
- （2）音楽を鑑賞しながら、子供達は物語を再現する（言葉による表現）
- （3）子供達は好きな場面の絵を描く（絵画による表現）
- （4）紙芝居台にセットした自分の絵を説明する（言葉による表現）
- （5）物語の復習と寸劇の役決め
- （6）寸劇を作る（劇遊び）
- （7）紙芝居台にセットした子供達の絵と筆者の語りで音楽を静かに聴く（絵画と音楽の鑑賞）

### 4. 活動日時

平成21年1月13日～2月17日の間に6回

1回の活動時間 約20～30分

## Ⅳ. 実践と考察

**1月13日** （1）音楽を鑑賞しながら、筆者が大まかに創作した物語を子供達との対話を通して発展させていく（言葉による表現）

冬休み明け、初めての音楽活動の日。音楽鑑賞は毎回少しずつ色々な形で行なっているが、BGMを聴きながら話を聞くのは初めて。子供達は何か期待している様子。「森の中に住んでいるお月様が大好きな男の子が、夢の中でお月様と



出会えるか？」という、筆者がピアノ曲「月の光」に合わせて設定した物語を語り始める。子ども達とどのような展開になるのか予想もつかない。彼らの自由な発想は言葉によってどのように表現されるのだろうか？

子どもの会話他

「 」 筆者語り

( ) 筆者コメント

無 印 筆者から子ども達へ言葉掛け

筆者：「ある森の中にジミーという男の子がおばあさんと二人で暮らしていました。ジミーはとても元気な子で森の中にたくさんお友達があります。」さてどんなお友達がいるでしょう？

子ども達：ウサギ、リス、くま、ぞう、

筆者：いろんな動物がいるね。

子ども達：とり、へび、ライオン、やまねこ、きりん、トラ、ゴリラ、チンチン

Y君：よしき！…（自分の名前を言っている）

①子ども達：（意見が飛び交う）

②筆者：だけどジミーはみんなと違ってちょっと可哀想なことがあるの、何だと思う？

M君：…お金がない！

筆者：そうねー…でもお金は森の中だからなくても大丈夫なの。

K子：あっとトロに会いたい！

筆者：ほんとだ！ウーんでも会えないのはみんなも同じでしょ

S君：（自信もって声を上げて！）あーっわかったあ！ ご飯がない！

筆者：それは、可哀想ね。でも森の中でおばあさんが畑を耕して、お野菜やお米を作るから食べるご飯はあるの…  
なんだろう、可哀想なことって…ジミーはあまり気にしてないんだけど…

子ども達：（考える…）

筆者：それはねー、ジミーはちょっとお怪我しちゃって歩けないんだって。だけど森にたくさんお友達がいるから寂しくないんだっ

て。とっても明るい、いい男の子なの。

H君：ジミーってチンチンある？

筆者：男の子だからみんなと同じようにあるよ。  
ジミーはお月様がだーい好きな男の子なの。だからいつも夜になるとお月様をながめているんだって。

♪「月の光」CDスタート

楽譜 P. 1

③筆者：「ある晩のこと、ジミーはお月様を見ながら眠ってしまいました。そして夢を見ました。ジミーは夢の中でも、お月様を眺めています。」お月様がだーい好きなんだって。なぜと思う？

子ども達：光ってるから！！！！

④筆者：光ってるから…そうね、きれいだものねーそれからお月様は晴れた日の夜は、いつでも見られるよねー

筆者：「『あーあ お月様のところへ行きたいなーお月様とお話しがしたいなー』ジミーは夢の中でそんな風に思っていました。」

楽譜 P. 2

⑤筆者：「あれー何か光った！」…よく聞いて本当に光るんだよ。…何が光ったのかなー？

子ども達：（聴いている）

筆者：また…ほら！ わかった？

⑥子ども達：星！ 流れ星！

筆者：流れ星だ！「ジミーは森を抜けて、川を渡り歩いていくと、そこには大きなお山がありました。」

⑦ジミーは夢の中で歩けるようになったんだね…「お山の上は、気持ちのいい風が吹いています。」

楽譜 P. 3～4

筆者：お山の上ではどうなったのかしら？ お山の頂上に上ったジミーはどうしたと思う？

子ども達：星に会った！ 流れ星に会った！

筆者：あ～そうなの…流れ星に遇ったんだ…お山の上に登って…星はお山の上の…

⑧お空の上にあるでしょ…そしたら届かないよね。ジミーはどうしたんだろ？

⑨ K 君：お父さんに会った

筆者：あーお山の上でお父さんや、お母さんに会ったんだー

I 子：おじいちゃんに会った、おばあちゃんに会った

J 君：おばあちゃんには会わないよ！

筆者：そうだねー、おばあちゃんと一緒に暮らしているんだものね…

楽譜 P. 5

筆者：「さあ お山の上まで着いたんだけど、お月様まではまだ遠かったの… だけどジミーはお月様のところへ行けたんだって…」  
どうやって行ったのかなー？

K 君：エッ飛んだの？

筆者：飛んだのかなー？ えー？ どうやって飛んだの？

L 子：羽が生えてきて…

⑩ M 子：あっわかった！ 天使になったの…  
天使に連れていってもらった…

⑪ 子ども達：（思い思いに話している）

楽譜 P. 6

筆者：「ジミーは、お月様の所に行けたんだって！ あっお月様とお話してる…ほら、嬉しそうだね…

あっ また風が吹いています…だんだんお空が明るくなって…お日さまが出てきたよ…風が止んで…朝が来ました…」

♪「月の光」CD ストップ

筆者：「そしてジミーは夢から覚めました。」夢からさめたジミーはどんな気持ちになったと思う？

N 子：嬉しい気持ち！

⑫ 筆者：嬉しい気持ちだねー。だってお山の上でお父さんやお母さんやおじいちゃんに

も遇えたしねー。そしてお月様にも行けたんだよねー。羽根が生えたり、髪の毛がパサパサして飛んで行けたんだー。ほかにはどうやって行けたと思う？

⑬ S 君：飛行機に乗って… 先生！ウルトラマンに… ニコラエース（…？）

筆者：そして夢から覚めたジミーはどうなったと思う？ 今まで歩けなかったんだけど…（間髪を入れずに、一斉に全員で）

子ども達：歩けた！！！歩けて治った！！！！

筆者：そしておばあちゃんのところに歩いていて、おばあちゃんになんてご挨拶したの？

T 君：おばあちゃん治った！！！！

U 君：おはようございます！！！！

筆者：おばあちゃん、『足が治ったよ』って言ったんだー 素敵なお話だったね。

考察

①意見が止め処もなく次から次へと出てくるので、話を再開するのが大変であった。多くの子ども達の意見を自由に引き出したいと思うものの、あまり自由すぎてもクラス活動は収拾がつかない。しかし集団の中で自分が知っていることを伝えたい子ども達の気持がストレートに伝わってきた。

②子ども達にとって“可哀想なこと”は、“お金がない”“ご飯がない”という現実的な意見が最初に出てきたことは筆者にとっては、意外であった。色々な絵本や童話、アニメなどからも影響を受けているのかもしれない。

③音楽が流れ始めた途端にうるさかった子ども達は、静かに聴き始めた。“音楽鑑賞は退屈な時間”といわれるが、聴く前の導入の際、指導者が工夫し、興味付けを行えば、子ども達は集中して耳を傾ける。

④筆者が話さず、もっと子ども達の意見を聴くべきであった。音楽の時間の流れと語り、対話の時間の配分は、とても難しい。

⑤クラスは静寂。全員の子どもが聞き耳を立てて音楽に集中していた。

- ⑥筆者は、“お月様が光った”と感じたが、「心が動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、…」(注7)とあるように、子ども達は3週間前のクリスマス・キリスト生誕劇の体験から「流れ星」という発想が生まれたのだろう。
- ⑦子どもが気付けるように促すべきであった。
- ⑧星はどこにあるか、子ども達に尋ねるべきであった。
- ⑨全く予想外の展開…子ども達にとって一番心の中にあるのは、常に父親、母親であることを再確認した。
- ⑩ここでも“キリスト生誕劇”の経験が表現となって表れている。
- ⑪一斉に色々な意見が我先にと飛び交い聞き取れない、髪の毛が羽になる動作をする子もいる。
- ⑫なぜ嬉しい気持ちなのか尋ねるべきであった。
- ⑬話が終わらない。おのおのなぜ飛べたのか話しているが、残念ながら聞き取れない。しかし友達同士で活発な発言、意見交換が繰り返されていた。

子ども達の物語作りへの参加は、断片的なものではあったが、それぞれのイメージは膨らみ、「自分の気持ちを言葉で表現する楽しさ」(注8)、物語を想像する楽しさ、またお互いに「考えたことを話し伝え合う喜び」(注9)も味わっていただろう。第1回目ということもあり、クライマックスでは友達の言葉は全く耳に入らず、感じたこと、考えたことを自分なりの言葉で思い切り表現していたのが印象的であった。

#### 1月20日 (2) 音楽を鑑賞しながら、子ども達は物語を再現する(言葉による表現)

一週間前に物語で聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりの言葉でどのくらい再現できるのだろうか。“紙芝居を作る”という新しい目標に向かってクラスみんながまとめ、紙芝居を作りたいという気持ちがどのくらい盛り上がり、友達と心を通わせることができる

のだろうか？

(筆者が紙芝居スタンドを部屋に持参する。これは2サイズの絵を差し入れることができ、正面は左右の開き扉付きの木製の立派なもので保育園の備品であるが、あまり使用する機会がないためか園児達には珍しく、それを期待の眼差しで眺めている。)

子ども達：あっ紙芝居だ！紙芝居！物語やる時の…静かに！ ふざけないでよー！

(子ども達は思い思いに話している)

筆者：この間、お月様のお話をみんなで作ってくれたよね。それを今度はみんながT先生(担任保育士)にお話してあげて…男の子のお名前は？

A君：あっわかった！ えんどう豆！(？)

子ども達：ジミー！ ジミー！ ジミー！

筆者：そうだ〜ジミーっていう男の子…どこに住んでいたの？

子ども達：おばあちゃんと住んでた！

筆者：どこに住んでいたの？

子ども達：森！ 森！ 森！

筆者：あー森に住んでいたんだ。そしてジミーにはどんなお友達がいたんだっけ？

子ども達：リスとか、ウサギとか、よしきとか(声がたくさん挙がる)

筆者：可哀想なことがあったんだよね、どうしてだっけ？

B子：足が…足が悪くて歩けない…

(筆者、紙芝居の扉を開ける、子ども達は期待の眼差しで見つめ、気持ちは最高潮！)

子ども達：(大きな声で) 白い紙じゃ〜ん！

筆者：あれえー何にも出て来ないねー ジミーは何が好きな男の子だったの？

子ども達：…(期待していた紙芝居に何も絵がなく、かなりショックの様子)

筆者：何を見るのが好きだったの？

子ども達全員：(元気に気持ちを直して) お月様！！！！

♪「月の光」CDスタート

筆者：ある晩、ジミーはお月様を見ながら、どう  
なっちゃったの？

子ども達：寝た

筆者：そして…

子ども達：夢を見た！！

筆者：夢の中では何が見えた？

B子：お母さんとお父さん

筆者：そうね、お父さんやお母さんに遇えたの  
よね。そしてジミーはお月様を見てたんだ  
よね！それでジミーは夢の中でどんな風に  
思ってたの？（子ども達、音楽を聴いてい  
る）絵がないから、みんなで今度は紙芝居  
を作らない？

子ども達：…

筆者：あ～ジミーがお月様を見てたらピカって光  
ったところだね！

ジミーは夢の中ではどうだったんだっけ？

歩けなかったんだっけ、歩けたんだっけ？

子ども達：歩けた！！（次第に気を取り直して  
くる）

筆者：それでどこへ行くの？

子ども達：…？

筆者：森を抜けて…川を渡って…

子ども達：（全員一斉に元気に）山！！

筆者：山があったんだ！　じゃあここはジミー  
が山に登ったところだね！（紙芝居を指差  
す）そして山の上ではどうしたの？

C君：お月様を見てた！

筆者：そしてお山の上では誰かに遇った？

D君：リス

筆者：誰だっけ？（少し間…）

E子：あっ、お父さんとお母さん！

筆者：あ～お父さんとお母さんに遇ったんだ！じ  
ゃあここは、お父さんとお母さんに会った  
場面が紙芝居で描けるね。  
お山の上では風がヒューって吹いていたの  
よね。ジミーはお山の上に登ったんだけど  
お月様はどうだったの？　お月様に会えた  
の？

子ども達：…

筆者：お月様までまだ遠かったんじゃないの？

F子：そう、遠かったから…

筆者：だからそのままじゃ行けなかったのよね。  
どうやって行ったの？

G君：ジャンプして！

H子：天使！

筆者：天使につれてってもらった…あとは？

I君：ウルトラマンに運んでもらった！！

筆者：じゃあここはジミーがスーって飛んでる場  
面だね！一緒に連れていってくれたんだ  
（しばし音楽を聴く）

筆者：そしてジミーはお月様の所へ行けたんだっ  
け、行けなかったんだっけ？

子ども達：（全員一斉に）行けた！！

ジミーとお月様が一緒になっていると  
ころだね。ここはそういう場面。み  
んなどの場面が好きなのかな～

子ども達：（じっと音楽を聴く）

筆者：ここはジミーとお月様が何をしているところ  
だと思う？

J子：お話してる…

筆者：どんなお話してるの？

J子：…

筆者：どんなお話してるんだろう…内緒話で聞こ  
えないよね～きっと心の中でお話してるん  
だね  
そしてまた風が吹いて…、だんだんどうな  
っていくの？風が吹いて…お空が赤くなっ  
てきて…

子ども達：朝に…

筆者：お日さまが出てきて…

子ども達：朝になる！

♪「月の光」CDストップ

筆者：ジミーが起きてきた時はどうなったんだっ  
け？

子ども達：（全員一斉に）足が治った！！

筆者：あ～ここは足が治った場面だ！　足が治っ  
てどうしたの？

K君：おばあちゃんにお礼を言いに行った

L子：おばあちゃんのところに行った、治ったよ～



って言った

筆者：あーそうなの、じゃーみんな今の色々な場面でどこが好きだった？

子ども達：お母さんに会えたところ！

筆者：お母さんに会えたところが好きだったの～あとは？ お月と会ったところが好きだった人？

子ども達：お月様とお話したところ

筆者：あーそうなの…じゃー天使が連れていってくれたところが好きだった人？

筆者：ウルトラマンや天使が連れていってくれたところが好きだった人？（多い!!!）

自分が好きだったところの場面の絵を描いて、そしてみんなの絵を集めて、きりんさん（クラス名）紙芝居をやるから!!!

さっき他のクラスで色々な動物さんの絵を描いてもらって紙芝居したの。みんな上手でしょ（4歳クラスは、サンサーンスの「動物の謝肉祭」を聴いて絵を描いていたのでそれを見せた）

このクラスはきりんさん（年長）だから、お話を作って、本当の物語になってるからみんなで紙芝居作ろうね

Y子：すごい上手いの作ろう!!!

筆者：うん、すごく上手いの作ろうね。そしてきりんさんの紙芝居大会やろうね！じゃ好きな場面を1枚でもいいし、たくさんでもいいし描いて下さい。

子ども達：は～い

#### 考察

前回の話の中で子ども達にとって印象的だったことは、お月様より、山の上でお父さんやお母さんに出遇えたこと、ジミーが歩けたこと、ウルトラマンや天使に月へ連れて行ってもらったことなど身近に感じられることであった。それはこの日の活動中の活発な子どもの発言だけでなく、次週に描かれた絵によっても証明される。

また筆者が9年間保育園で音楽指導をしてきて感じることは、聴覚に視覚的な要素が加わると、

より興味が湧き、集中するのではないかということである。子ども達は、日頃の活動の中でも筆者がピアノに向かって美しい伴奏をしながら歌っている時より、無伴奏でも、子どもと対面で歌う時の方が良く聴いている。また対面で話すだけより目の前に絵や何か対象物がある時の方がさらに集中力は増している。0～6歳の乳幼児はただ音楽を聴くより目の前の何かを見ながら聴いた方が楽しんでいる。それは、筆者が受講したりトミック研修でも指導者が同じことを述べていた。（注10）そこで筆者はこの日の活動では話を再現して「それでは来週までに紙芝居を作ってね」という方法ではなく、あえて真っ白の紙芝居を使いそれを見せながら話をしていった。それにしてもワクワクドキドキで楽しみにしていた紙芝居が、扉を開けた瞬間、白紙だった時の子ども達の落胆ぶりは予想以上であった。それでも筆者はセットした白紙をめくり続けた。子ども達はがっかりしてはいたが、これを見ながら物語を言葉で再現することで心の中には各場面が描かれ、想像力を増し、創作意欲を掻き立てられたのではないだろうか。最後はY子の「すごい上手いの作ろう!!!」の言葉でクラスは一つになり活気付いていた。

**1月27日** （3）子ども達は好きな場面の絵を描く（絵画による表現）（4）紙芝居台にセットした自分の絵を説明する（言葉による表現）

いよいよ子ども達の絵を見せてもらう日。心に思い描いていた映像はいったいどんな場面だったのだろうか？その映像を言葉で表現できなかった子どももいたであろう。クラスではどうしても活発な子が発言するし、概ね6歳では言葉の表現力にまだまだ差がある。前2回全く発言をしなかった子どももいる。その子ども達の心の色を絵画による表現から覗いてみる。

筆者：最初にみんなの紙芝居を見せていただきますし。

（紙芝居スタンドに子ども達の絵を準備している間も、誰が描いた絵か口々に声が挙がり、紙芝居

ムード一色。今か今かと始まるのをワクワクしながら待っている)

♪「月の光」CDスタート

筆者：今日はみんなの絵を見せて下さい

(1枚1枚みんなで食い入るように紙芝居を見ながら、これは、どんなところを描いてくれたの？という筆者の質問に絵を描いた本人には前に出てきて説明をしてもらった)



Y子：ジミーが動物に会っているところ

男児：女じゃないか！

Y子：ジミーは女でもいいってわっこ先生（筆者の名）言ったもん！

(当初は、ジミーは男の子の設定であったが、女児から女の子でもいいかと質問があったのでなるべく設定を限定せずに自由な発想で想像して欲しかったのでそのように答えた)



S子：ジミーが山の上から見た風景

男児：ジミーがいないじゃないか！

担任保育士：ジミーが見た風景だからジミーはいないんじゃない！

(下のほうに山があり、三日月と3色の星を画用紙いっぱい散りばめて、自分がジミーになりきって描いていたのが他の子にはない発想で面白かった)



N子：…

(左からママ、じみ（本人の自筆により）、おそらくパパ。3人共ニコニコ笑って平和な絵である)



M子：…

男児：顔が黒～い 悪魔だ！悪魔だ！（絵の具で描いた顔が水でにじんでしまったのだろう）

男児達：本当だ、黒～い黒～い

(みんなが笑ってざわつき始めた時、突然大きな声で)

Y子：そんな風に笑ったらMちゃん嫌な気持ちになるよ！（Y子が半泣きべそをかいていた）





S君：…

(お月様とジミーが嬉しそうにお話している様子がうかがえる。場面の説明をみんなの前で話すことはできなかったが、この絵からS君の心の中が見える。左の文字は6の反対、紙芝居の番号だそう)



T君：ウルトラマン！

(みんながジミーを捜している…)

子ども達：あっウルトラマンの上になりたいた！！

(子ども達、保育士にも大うけ！ものすごい盛り上がりであった)



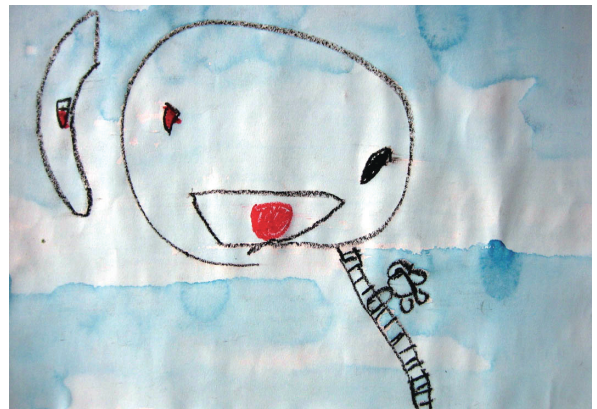
S子：ジミーはお姫様だから…

(ベールをかぶっている理由を言っているらしい。S子はキリスト生誕劇で天使の役を担当した。天使の台詞はあまりないがベールをつけてステージを舞う、毎年の子供達の憧れの役である)

男児：え～ジミー？ ウサギだよ？

S子：…

筆者：だからジミーってウサギだったんじゃないの？



男児：あっ宇宙人！

K君：階段を登ってお月様に行ったの…

(口数の少ないK君が答えてくれた。子どもらしい発想に担任保育士も微笑んでいた)

#### 考察

以上8枚以外にもジミーが月を見ているところ7枚、ウルトラマンに乗っているところ2枚、山にいたところ2枚、流れ星、虹色の花、女神の星など合計22枚の素晴らしい紙芝居ができた。

この日の活動では、BGM「月の光」の流れには全く沿ってはおらず、子ども達の耳には音楽はあまり入っていないようだったが、それぞれ自分の絵の説明を一生懸命し、また友達の絵を認め、実に楽しくクラス全員で紙芝居を作り上げようと

する気持ちを共有することができた。

只、この活動は非常に盛り上がり、時間がかかった為、活動時間内に全ての絵を紹介することが難しかった。「残りは来週」と伝えた処、ブーイングの嵐となり、給食の時間を押して全員に絵を説明してもらった。

言葉での表現があまりできなかった想像力豊かな子どもが、絵画によって感じたことや考えたことを自由に表現していたのが印象的であった。

## 2月10日 (5) 物語の復習と寸劇の役決め

活動も4回目。子ども達もこの活動に少しずつ慣れてきた。前回の紙芝居という自己表現を結集したクラス表現から、今回は仲間全員で一つのものを作る身体表現の活動に入る。

筆者：今日はみんなが描いてくれた絵に他の絵も足して音楽を聴きます。そして、もしできたらなんだけど、簡単に劇にしたら楽しいなと思うの。ジミーの役とかお月様の役とか決めて…

A君：えー前、劇したじゃん！

(12月にキリスト生誕劇を披露した)

筆者：あの、クリスマスの時の？あんなに大きな劇じゃなくて、もっと簡単なのでやれたらいいなあとと思っているの。

## ♪「月の光」CDスタート

(筆者の描いた絵も混ぜて紙芝居をする。終了後)

B君：オレのなかった オレのもなかった…

保育士：第二巻で出るからね！

筆者：…みんなで劇を作るとしたら何ていう題にしたい？題は何にする？

D子：ジミーと星？

保育士：お月様にいくんだよ！

子ども達：ジミーの冒険！ ジミーとお月様のお

話

筆者：色々出たね！ジミーと星、ジミーの冒険、ジミーとお月様のお話

E君：じゃそれでいいじゃん！ ジミーとお月様のお話

F子：ジミーの体験のお月様 (?) ジミーの体

験！…

(その後、色々関係のないものまで出てくる)

G君：ウルトラマンギアスって書けば！…

保育士：ウルトラマンのお話になっちゃうじゃない！

筆者：(名前はもう少し検討することにした) はい、そしたらもし劇にするとしたら、ジミーになりたい人、手を挙げて！

子ども達：はい

(何人も手が挙がる)

筆者：ジミーは何人いてもいいんだよ！ いろんなジミーがいると思うの、わっこ先生は。ジミーは日本にもいて、イタリアにもアメリカにもいて…はいそれではお月様になりたい人

H君：はい

筆者：ウサギになりたい人！

H君：はい (ジミーに挙手した子がまた手を挙げ、友達に指摘される！)

I君：ほんとにやるの…？

J子：お話する時、みんなが台詞とか一緒にやって作ったらどう？

筆者：だから来週みんな自分のやりたいのをやってみようかなと思うの。そんなに大変じゃなくするのよ！ あと誰が出てくる？

K君：ウルトラマンギアス！ (ふざけて色々な名前が飛び出る)

L子：流れ星！

筆者：来週どんな役になりたいか決めてやってみよう！

I君：ほんとにやるの…？ (子どもの真意は分からないが、クリスマスのキリスト生誕劇のような大掛かりな劇が負担だったのであろうか？)

考察

物語の中で子ども達の絵が無い場面もあったので、多い方が良いかと以前筆者が“親子音楽”という子ども支援活動時に使った筆者の手描の絵を数枚加えたが、子ども達だけで作り上げたものに



全く知らない外部のものが混ざってしまい失敗であった。さらに絵の枚数が増え、音楽の時間内に全ての絵を見ることができず、子どもには残念な気持ちを残してしまった。また限られた活動時間内に劇にまで発展しなかった為、繰り返して2回紙芝居を流すことができなかった。

この日の時点では、積極的に話し合いに参加する子、台詞のことまで考えている子、「ほんとにやるの?」と何度も問いかける子など劇に対しての反応は様々であった。役決めは楽しそうに参加している子どもが多かったが、動く時間までは無かったので、子ども達は未だ実感が湧いていないようにも感じられた。

#### 2月17日 (6) 寸劇を作る (劇遊び)

限られた時間でどのような劇遊びができるのか? 子ども達の力でどのような活動となるのか? 筆者の援助はどの程度必要であろうか?

筆者にとっても初めての試みで未知の期待感を持って臨む。

(手落ちで絵が見つからず、通しの確認紙芝居ができなかった。)

筆者：今日はタイトルを決めて…この間出たのは、ジミーと星、ジミーの冒険、ジミーとお月様、ジミーの体験、ウルトラマンギアスとか…もう一回ジミーのお話を思い出してどんな題がいいか考えましょう。(題は「ジミーとお月様」に決定した) そして今日は自分がどんな役がいいか決めて下さい。ちょっと聞くね! ジミーになりたい人手を挙げて! (二人)。お月様になりたい人! (一人)。あとは誰が出てくる?

K君：ウルトラマンギアス!

筆者：ウルトラマンになりたい人? (多数) うさぎちゃんになりたい人? (多数)

L君：オレ 山になりたい!

筆者：山になりたい人? (二人)

①M君：ジミーの劇やる時にさー、山さー、ほんとに山みたいにするの! 紙でこうして

さー…紙の後ろで隠れればいいじゃん!

②筆者：あーでも隠れているとお顔見えないね…  
今、お友達と二人でやるって誰か言ったでしょ? 二人出てきて!

(三人が出てきて組み立て体操のように手をつないだ)

筆者：そしてお月様の人出てきて! (一人出てきた) どんな風にやるの? やってみて!  
(両手を挙げて円を作る)

あーみんな、こんな風にやるんだって! 満月だねー

はい! 次はうさぎちゃんになりたい人!  
(7~8人元気よく手が挙がる)

うさぎちゃんはどうな場面で出て来るの?

子ども達：…

筆者：うさぎちゃんは、小さいうさぎちゃんや大きいうさぎちゃんがいていいんじゃない?  
うさぎちゃんはどこに登場するの?

子ども達：ジミーが来てから…

筆者：ジミーが来てから…? お友達だから遊んであげるのね。

K子：おばあちゃんは?

筆者：おばあちゃん役の人? (色々子ども同士の推薦があるが…)

推薦された子：いやだ! お月さんがいい!

(おばあちゃん役は人気が無く、推薦でA子によって決まった)

筆者：はい! ジミーとおばあちゃん出てきて!

ジミーは何人出てきてもいいんだよ、いろんな国のジミーがいるねって前に言ったでしょ。おばあちゃんは、何してるの? お仕事は何?

S子：縫う…縫うこと!

あーそう、じゃあ おばあちゃんのA子ちゃん、縫うまねしてくれる? (普段その姿を見ているのか上手に縫い物をしている)

今日はわっこ先生がお話するね。次の時はみんながお話してね。

♪「月の光」CDスタート

…略…

筆者：「ジミーは足が悪くて保育園に行けないけれど、でも森にいっぱいお友達が居るので寂しくないのです。」ハイ、お友達静かに出てきて下さい。(ウサギ達がピョンピョン飛び跳ねながら出てくる)

T子：あっロボットだ！Nちゃん！（N子の出方が他の子と違ってロボットのようで面白かったのだろう。このあたりから、子ども達は友達の様子、動きに注目し音楽を聴いていないと思われる。筆者の語りにもあまり耳を傾けていない様子）

筆者：「ジミーは森を抜けて…川を渡って…」(筆者が、お山！お山！と登場を促し、お山役、登場。出て来た三人は横一列に手を繋ぎ足をしっかり開き、隣の子どもの足とぴったり付けて安定させている。中心の子は大きく伸び、両サイドの二人は腰から前屈の姿勢をとった。)

『あっあそこにお山があるぞ！お山に登てみよう』（ジミー役の子教室内を歩いている）お山の上で誰かに遇ったんじゃない？

子ども達：お父さんとお母さん？

筆者：そうだお父さんとお母さん役がいる！誰かやってくれる人？

子ども達：Nちゃん！ Nちゃんがピッタリだよ！

筆者：お父さん役は？

子ども達：K君！

(K君は嫌がり、お父さん役は決まらなかった)

筆者：「夢の中でお母さんに会いました。『お母さん～ん 会いたかったよ～』（抱き合いたいと筆者は思ったが、ちょっと恥ずかしがってできない）夢の中でお母さんと手をつないで…」

(男児と女児が手をつないで、教室内を歩いたので子ども達に大うけ！)

子ども達：結婚式！（？） 結婚式おめでとー！（大騒ぎ！！！）

筆者：「山の頂上に着きました。」お月様は誰？

Y君：ハイ ぼくお月様！（へそが出るほど精一杯背伸びをして満月を作っている）

筆者：満月綺麗だね

(このあたりから子ども達の耳には音楽は全く入っていないようではあるが、ものすごい盛り上がりである)

子ども達：三日月とか… あの台の上に乗ってやればいいじゃん！（床に立って満月をずっと動かず作っていたY君を見て発案）

筆者：あっいい考えだね～そうだ、お月様は高いところにあるんだから！

Z君：手伝おうか？（クラスみんなが劇を盛り上げようと心が一つになっている。何人かの子どもが二人用の椅子にもできそうな大きな木製の直方体の積み木を片付けてあった教室の隅から出してきて2段積み上げ、筆者が少し手伝い安全に高くした。)

子ども達：わ～高～い 背伸びして～ 高い高い！！東京タワーだあ（手を叩いて喜んでいる）

筆者：『あっお月様はまだあんなに高いところだ！』いったいジミーはどうやって行くのでしょうか？（間…）

「そこへウルトラマンがやってきました。」（ぞろぞろと大勢出てきて、子ども達は大喜び、大騒ぎ、大はしゃぎ！！！劇はしばし中断…）ウルトラマンがやって来てジミーはいったいどうやってお月様に行けると思いますか？

子ども達：…

③筆者：ウルトラマンが背中におんぶして！一番大きなウルトラマンにおんぶしてもらおう！（試してみたが、長い時間おぶることはできず、ジミー役の子はウルトラマン役の子の背中から手を回して一緒に歩いている。他のウルトラマン役の子も後ろに続いて歩いていた）

「ウルトラマン！ピューー」(しばし

中断、ドラマはクライマックス！ みんな  
思い思いに話しているため、なかなか  
再開できない…)

「そして風が吹いて…」 あっ風の役の人  
がいない？ まだ何の役もやっていない  
人？

(積極的で既に役を果たした子ども達が、まだ出  
ていない友達の名前をどんどん挙げている。担任  
保育士の助言もあり、数名出て来る。)

「風が吹いて… (風の役の子、小走りで  
舞っている～)、ジミーは風に乗ってお  
月様の所に行きました。(お月様の台に  
ジミー役の子が登り月役の子と一緒に嬉  
しそうに話をしている) そして風が止  
んで朝になりました。」 あっジミーが起  
きたよ～ 朝のおばあちゃんのお仕事は  
何？

A君：朝ごはん！ あーショートケーキ作ればい  
いじゃん！

筆者：えっ朝ごはんがショートケーキ？

B君：シュークリーム！ 納豆！ (子ども達は、  
やや興奮気味)

筆者：おばあちゃんに何と言うのでしょうか？

子ども達：「おはよう」じゃん！

筆者：他に何か言うことなかったっけ？ あった  
よねー

子ども達：「あーあー足が治ったよ～」って

筆者：それでは、おばあちゃんの前で歩いて見せ  
てあげて下さい。「元気な姿です。お病氣  
も治りました。よかったね！」

今、何の役を自分がやったかわかるでし  
よ。来週までにおばあちゃんだったらおば  
あちゃんらしく、お月様だったらお面を簡  
単に作るとか…みんな自分のやりたいのを  
簡単に作ってみて下さい。(それぞれ楽し  
そうにいろいろ考えを話していた)

保育士：おばあさんが良かったですね。ちゃんと  
縫い物をしてましたね！

考察

②の筆者の対応の仕方は反省すべき点である。  
①のようにM君が山のイメージを具体的に表現し  
ようとしているのに対して、筆者はまずは認める、  
受け入れることが大切であった。その後「お顔が  
見えるといいね、どうすればいいかなあ？」とさ  
らに問いかけをし、次のステップを促すことがで  
きたであろう。筆者自身の考えでM君の話を終わ  
らせてしまった。

③子ども達にとってはおそらく一番盛り上がる  
ウルトラマンの登場。「ウルトラマンがやって来  
てジミーはいったいどうやってお月様に行けると  
思いますか？」という筆者の質問にすぐ答えられ  
なかった子ども達。何故この物語のクライマックス  
の答えを子ども達が見つけれられるように促すこ  
とができなかったのか？と悔やまれる。どうしても  
援助し過ぎてしまう。そのことは理解している  
つもりでも難しく、実際子ども達の前に立った時  
に“待つこと”“子ども達を見つめること”の大  
切さを痛感した。

この日の活動の主導権は筆者から子ども達中心  
に変わっていった。寸劇の第一回目ということも  
あり恥ずかしそうに動いている子もいたが、ごっ  
こ遊びが好きな子ども達は、非常に楽しんで、ま  
た子どもによっては成りきって表現していた。

今までになく盛り上がりがあったのは、既に5週間  
この物語に触れ、熟知し、身体を動かすのが好き  
な子ども達が前回までの着席の体勢から、立ち上  
がり実際に友達と一緒に動き始めたこと、またそ  
れをお互いに見合っていて楽しかったからではないだ  
ろうか？この日の“身体表現”は、前回の絵画と  
違い、他者との関係、友達とのコミュニケーション  
から生まれる活動であった。友達との関わりの中  
で自己表現し、一緒に活動する楽しさを味わう  
ことができたのだろう。この日までには、クリス  
マスのキリスト生誕劇の経験も生かされ、さらに  
運動会の組み立て体操の体験から山を3人で作る  
など幼児の身体表現は「裏打ちされた経験があっ  
てこそ、自己表現は生き生きしたものになり、そ  
のことが表現活動にも影響を与える」(注11)の

ではないだろうか。

**2月24日 (7) 紙芝居台にセットした子ども達の絵と筆者の語りで音楽を静かに聴く (絵画と音楽の鑑賞)**

最終回では、筆者はほとんど援助せず子ども達が自由に表現できるよう計画をしていたが、卒園式の練習にも入っており、ほとんど時間が取れなかったので、初心に帰り「月の光」をじっくり聴くことにした。

筆者：今日は時間がなくて動けないのだけど、音楽を聴いてみんなの絵に合わせてお話をします。

**子ども達：音楽だけ？**

筆者：音楽だけじゃないよ。みんなの絵を見ます。

♪「月の光」CDスタート

紙芝居スタート

(子ども達は非常に静かに聴いている。1回目に聴いた時とかなり違う姿勢で。しかしウルトラマン登場の時だけは大きな歓声が上がった)

筆者：題は何だったけ？

**子ども達：…**

(あまり重要ではなかったのだろう)

筆者：ジミーとお月様のお話だよ…おしまい。  
(大きな拍手が沸き起こる)

保育士：(筆者に) やっぱ最後はちゃんと聴きましたね。

考察

前回の寸劇は、おそらく楽しく、印象的だったのだろう。それゆえ「音楽だけ？」という問いがあったのだと考える。やはり多くの子ども達は音楽だけでなく、絵や物語だけでなく、身体表現をより好むのだろう。それゆえ時期と時間配分の準備不足により寸劇が一度きり、筆者の援助の下に行なわれただけで終わったことが悔やまれてならない。今回、子ども達が「月の光」の音楽をどのくらい感じているのかを測り知ることはできな

いが、5回の表現活動を経験後の今回は、ふざける子どももなく、物語に入り込み、友達の絵を食い入るように観ながら静かに鑑賞していた。少しざわつきながら単なるBGMとして聴いていた一回目とは明らかに聴く姿勢が変わっていた。

## V. 総括

以上、6回の実践報告と考察でみてきたようにドビュッシーピアノ曲「月の光」を聴いた子ども達は、身近に経験したことのある美しいもの、嬉しいこと、肉親への愛、好きなもの、大切なもの等をそれぞれ思い浮かべ、想像する楽しさを味わいながら、友達や筆者と対話しながら物語作りに参加し、お互いに心を通わせることができたのではないだろうか。

また音楽や物語等、「聴くこと」や“対話”で抱いたイメージをクラスの紙芝居作りを通して、目に見える具体的な形“絵”によって表現することができ、友達の絵を見ながら心から楽しんでいった。そしてこれは唯一、筆者の援助が入らない子ども達の表現であり、子ども達の心の中を覗くことができた。

さらに寸劇によりその具体化されたイメージを表現しながら楽しむことができるなど様々な表現活動を繰り広げることができ、この題材は有益であったと考える。

また友達の絵や身体表現においては「友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう」(注12) こと、「友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見出し、協力して物事をやり遂げようとする気持ちをもつ」こと(注12)ができ、お互い認め合い、協力しあい、この活動を通してより良い人間関係を築くことができたのではないだろうか。

今後も多種多様なジャンルの音楽の参加型鑑賞をしながら、子ども達の様子をよく見、その援助の仕方を考え、見守りながら、できる限り子ども達の感性や自由な発想を大切に、想像力、表現力を伸ばしていきたい。



## 反省と今後の課題

この度の活動終了後、ずっと考えていたことが二つある。第一に音楽を全く聴かずに今回と同じような活動をしたらどのような表現活動になっていたのだろうか？ということである。子ども達にとっては物語や絵や寸劇が、目の前にあるメインの活動であり「月の光」は単にBGMとして流れているにすぎないからである。今回と逆の方向から見れば、物語や紙芝居や寸劇でそれに合った音楽があるのと無いのでは劇的効果が違うのは間違いない。音楽無しでの活動を同じ子ども達に試すことは不可能であるが、じっくり吟味した上で別の子ども達にその活動を試して見ると、今回の研究の成果がさらにはっきり見えてくるのではないだろうか。

第二は、この曲を聴かせながら筆者の考えた物語を基に対話するのではなく、初めから子ども達の印象、発想に全て任せたらどのようなストーリーが展開されていったのだろうか？ということである。前述したことだが、筆者の援助が多く方向性も自由とは言えなかったのもっと子ども達から自由な発想を引き出せるよう援助の方法や度合いを熟考する必要がある。どこまでは見守り、どの位の援助が必要なのか子ども達を前に咄嗟の判断力をもっと養わなければならないことも今後の課題となった。

## 謝辞

最後に日頃から筆者の活動にご協力下さっている埼玉県吉川市のY保育園の理事長をはじめ、園長先生、他の保育士の皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

# 月の光

P. 1

ある晩のことです。 ジミーは、お月様を眺めながら眠ってしまいました。

*Andante très expressif*

Piano

そして夢を見ました。ジミーは夢の中でもお月様を眺めています。お月様が大好きなんだって。なぜと思う？

子：光ってるから！

「お月様とお話したいな～」ジミーは夢の中でいつもそんな風に思っていました  
「あ～あ お月様の所に行きたいな～」すると・・・

P. 2

あれ・・・何か光った！何が光ったのかな？

また・・・

ほら！分かった？

Tempo rubato

Musical score for measures 15-17. The score is in G-flat major (three flats) and 3/4 time. It features a piano accompaniment with a melody in the right hand and a bass line in the left hand. The melody consists of a series of eighth notes, and the bass line consists of a series of quarter notes. The tempo is marked 'Tempo rubato'.

子：星！流れ星！

ジミーは森をぬけて

Musical score for measures 18-20. The score continues the piano accompaniment from the previous system. The melody in the right hand is a series of eighth notes, and the bass line in the left hand is a series of quarter notes. The tempo is marked 'Tempo rubato'.

川を渡り歩いていくと・・・

そこには・・・

Musical score for measures 21-23. The score continues the piano accompaniment from the previous system. The melody in the right hand is a series of eighth notes, and the bass line in the left hand is a series of quarter notes. The tempo is marked 'Tempo rubato'.

大きなお山がありました

ジミーは夢のなかで歩けるようになったんだね

Musical score for measures 24-26. The score continues the piano accompaniment from the previous system. The melody in the right hand is a series of eighth notes, and the bass line in the left hand is a series of quarter notes. The tempo is marked 'Tempo rubato'.

お山の上は気持ちのいい風が吹いています。

Musical score for measures 27-29. The score continues the piano accompaniment from the previous system. The melody in the right hand is a series of eighth notes, and the bass line in the left hand is a series of quarter notes. The tempo is marked 'Un poco mosso'.

P. 3

お山の上ではどうなったのかしら

お山の頂上にたどり着いたジミーはどうしたと思う？

29

子：星に会った！ 流れ星に遇った

31

あ～そうなの・・・流れ星に遇ったんだ・・・

33

35

En animant

37



P. 4

子：流れ星に遇った

Measures 39-40 of the piano score. The key signature is three sharps (F#, C#, G#). The melody in the right hand features a series of eighth notes and a half note, while the left hand plays a steady eighth-note accompaniment. A fermata is placed over the final half note of measure 40.

あ～そうなの流れ星に遇ったんだ・・・

Measures 41-42 of the piano score. The key signature changes to three flats (Bb, Eb, Ab). The right hand has a melody of eighth notes, and the left hand continues with eighth-note accompaniment. A fermata is placed over the final half note of measure 42.

子：お父さんに会った、お母さんに会った・・・

Measures 43-44 of the piano score. The key signature is three flats (Bb, Eb, Ab). The right hand features a melody of eighth notes, and the left hand plays a steady eighth-note accompaniment. A fermata is placed over the final half note of measure 44.

お星様はどこにある？ お山の上の・・・お空のうえにあるでしょ・・・そしたら届かないよねー

Measures 45-46 of the piano score. The key signature is three flats (Bb, Eb, Ab). The right hand has a melody of eighth notes, and the left hand continues with eighth-note accompaniment. A fermata is placed over the final half note of measure 46.

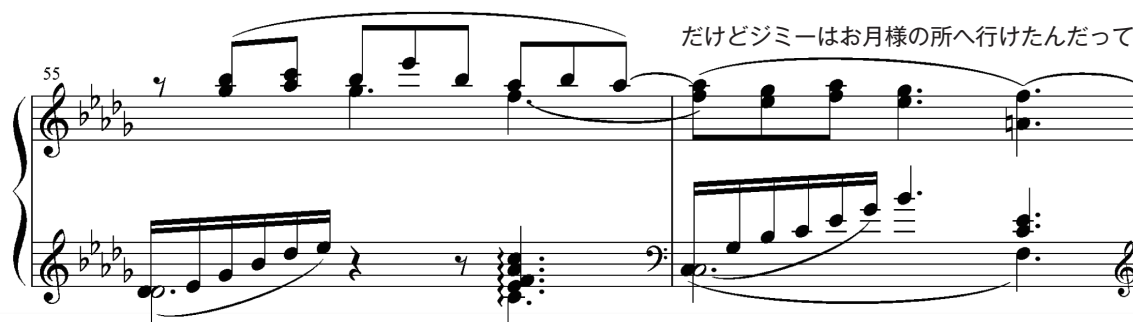
Measures 47-48 of the piano score. The key signature is three flats (Bb, Eb, Ab). The right hand features a melody of eighth notes, and the left hand plays a steady eighth-note accompaniment. A fermata is placed over the final half note of measure 48.

P. 5

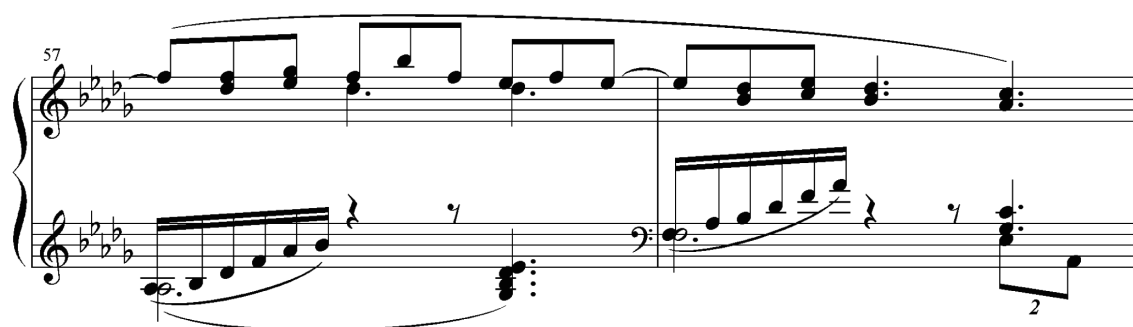


お山の上に着いたんだけど

お月様までは、まだ遠かったの・・・



だけどジミーはお月様の所へ行けたんだって



P. 6

ジミーは行けたんだって・・・ お月様とお話できたんだって・・・

59

ほら、お話してるよ 聞こえる？ 嬉しそうだね

62

風が吹いています  
morendo jusqu'à la fin

66

だんだんお空が明るくなって

68

お日様が出てきたよ・・・ 風が止んで朝が来ました。

70

〔注〕

(埼玉東萌短期大学非常勤講師 古谷和子)

- 1) 大畑祥子編著 「保育内容 音楽表現」 (第2版) 建白社 1999.7.30 p.23 (幼稚園教育要領 1964)
- 2) 野波健彦・板良敷敏編著 「保育内容表現」 光生館 2009.4.25 p.11～12
- 3) 堀口大學訳 「堀口大學全集3」 小澤書店 1957.4.30 p.26
- 4) 青柳いづみこ 「ドビュッシーとの散歩」 中央公論新社 2012.9.10 p.62
- 5) 青柳いづみこ 「指先から感じるドビュッシー」 春秋社 2009.4.20 p.203
- 6) 安川加寿子校註 「ドビュッシーピアノ曲集Ⅱ」 音楽之友社 昭和 35.6.10 p. 3
- 7) 野波健彦・板良敷敏編著 「保育内容表現」 光生館 2009.4.25 p.22
- 8) 「保育所保育指針」 厚生労働省 チャイルド社 2008.5 p.75
- 9) 「保育所保育指針」 厚生労働省 チャイルド社 2008.5 p.75
- 10) リトミック研究センター千葉第一支局 前支局長 山口晶子 2007
- 11) 名須知子・高橋敏之編著 保育内容 「表現」 論 ミネルヴァ書房 2006.11.10 p.3
- 12) 「保育所保育指針」 厚生労働省 チャイルド社 2008.5 p.71～72

〔参考文献〕

- ・全国社会福祉協議会 「新保育所保育指針を読む」 2008.5.22
- ・神原雅之編著 「音楽鑑賞の授業」 明治図書 2007.5
- ・黒川建一・小林美実 編著 「保育内容・表現」 (第2版) 建白社 1988.9.1
- ・角尾和子・角尾稔編著 「表現」 川島書店 1999.2.15
- ・無藤隆監修・浜口順子編者代表 「事例で学ぶ保育内容」 萌文書林 2007.1.7
- ・松橋麻利 「ドビュッシー」 音楽之友社 2007.5.10